

山陰門推協会報

第11号

ともしび

—— 発行 ——
 浄土真宗本願寺派・山陰教区
 門徒推進員連絡協議会
 代表者 松浦 靖

—— 事務局 ——
 〒690-0002 松江市大正町443-1
 本願寺山陰教室内



〈写真〉全国大会

内容

- 2頁～6頁・9頁…寄稿、新門徒推進員紹介
- 7頁～8頁…新会員の声
- 10頁～11頁…事業報告・事業計画
- 12頁…同朋の広場

第五回全国門徒推進員のつどい

山陰教区門徒推進員連絡協議会 会長 松浦 靖

この度のつどいは、本願寺御影堂平成大修復完成慶讃法要記念行事として、親鸞聖人七百五十回大遠忌法要に向けて新しく発布された『浄土真宗の教章(私の歩む道)』を学び、基幹運動の推進と寺院活動へ積極的に参加をする、門徒推進員としての自覚を深めることを目的としたつどいでありました。

全国から門徒推進員が四百四十九名集い、そのうち山陰教区の門徒推進員は三十名が参加いたしました。開会式でご門主よりお言葉をいただき、教章を新しく書き直しされた事をお話し下さいました。宗門全体の基本的な約束ごと『宗制』が改正されたのに合わせて書き直したというのが一番の理由であるが、時代の移り変わりを踏まえて、少し整理してわかりやすく書き直したということでした。

親鸞聖人のお教えによって、み跡を慕って歩ませていただく、みんなも是非一緒に歩ませていただくという願いで書いたものである。あわせて浄土真宗にご縁のない方が、真宗はどんな仏教ですか、どんな教団ですかと、お尋ねがあったときに、簡潔に自己紹介ができるようなものという意味も含めてまとめましたので、なるべく多

くの方に理解していただきたい、そういうつもりで書いていますと述べられました。

基調講演では、上山大峻・龍谷大学名誉教授より『教章』の中の「教義」「生活」「宗門」について「私たちは阿弥陀如来の智慧と慈悲を伝える教団であり、その伝えられた智慧と慈悲とによって、心豊かに生きることのできる社会の実現に貢献し、実現を願っている」と話され、これこそが大事な選ばれた道であるということに誇りを持って歩みを進めていただきたいと締めくくられました。

会場を大修復後の御影堂へ移し、コーディネーターは季平博昭中央基幹運動推進相談員で、四名の門徒推進員が自己紹介を含めて、それぞれの活動を発表し、心豊かに生きるための取り組みについて話しました。デイスカッションでは、一番の基本は私自身であり、家族、地域に阿弥陀如来の智慧と慈悲を伝え、みんなを支えあつていくことであるとまとめられました。

大会宣言として、親鸞聖人七百五十回大遠忌法要を成功させることを通して、基幹運動推進に全力を尽くすことを、参加者全員で確認しました。

寄稿

所長挨拶



「ご挨拶」
教務所長
金山 往生

昨年の十二月一日付にて、山陰教区教務所長・山陰教堂主管を拝命いたしました。宜しくお願い申し上げます。皆様には、基幹運動の推進にご尽力頂いておりますこと、敬意を表しますと共に、あつく御礼申し上げます。

山陰地方は、お念仏の人生を歩まれた多くの御同行が、また「妙好人」と讃仰されておられる方々がいらっしやいます。山陰教区に赴任いたし、「希有人」の方々によっても、浄土真宗のみ教えをお聞かせに与かることは、誠に有り難く存じます。

さて、門徒推進員中央教修は、二〇〇九(平成二十一年)年三月終了時点で総数七十七六名が修了され、その内の五二九名(七%弱)が山陰教区の方々であり、全教区でも特に数多の門徒が門徒推進員として、教区・各組・各寺院・各家庭等において、全員聞法・全員伝道、御同朋の社会の実現を目指す基幹運動の推進に、積極的に取り組んでおりますこと、誠に心強く存じます。

いよいよ一年二ヵ月後の二〇一(平成二十三年)年四月九日から、親鸞聖人七五〇回大遠忌法要がご修行されますが、一人の同行として大遠忌法要を如何にお迎えするかに思いをいたす次第であります。皆様におかれましては、基幹運動を実践するご門徒として、また門徒推進員として、なお一層のご活動を念じご挨拶とします。

新しく門徒推進員になられた方々

※掲載順は登録番号順

質問

- ①氏名(ふりがな)
- ②所属寺
- ③門徒推進員としての決意
- ④門徒推進員としての現在の活動
- ⑤門徒推進員としての悩み

- ④なるべくお寺の行事には参加する。
- ⑤新しい人にも入ってもらいたいが、なかなか連研をすすめづらい。

登録番号19511

- ①桑本 巖(くわもといわお)
- ②神門組 願立寺
- ③門徒の多くの方々積極的に取り組みます。
- ④願立寺の諸行事に積極的に参加しています。
- ⑤全体的な知識不足。

登録番号19512

- ①落合秀孝(おちあいひでたか)
- ②神門組 長泉寺
- ③お寺の各種の行事に積極的に参加する事。
- ④聞法の機会を多くもち、仲間をつくりたい。
- ⑤み教えに生きること。

登録番号19513

- ①瀬戸川茂子(せとかわしげこ)
- ②松江組 明宗寺
- ③無理せず、少しずつ活動参加したいと思えます。
- ④毎月の法座の聴聞、また行事の手伝い出来る範囲で参加させていただいております。

登録番号19509

- ①江角安夫(えすみやすお)
- ②出雲組 覚専寺
- ③私は御本尊の御前にて「親鸞聖人のみ教えに信順し、覚専寺仏仕活動に励みます」と決意表明しました。
- ④推進員としての活動は未だしていません。
- ⑤各自の価値観の違いを、住職と門徒推進員が如何に応えねばならないのか…。

登録番号19510

- ①三代修治(みしろしゅうじ)
- ②出雲組 月光寺
- ③若い人にもお寺の行事に参加してもらうよう働きかける。

登録番号19507

- ①安食 豊(あじきゆたか)
- ②出雲組 覚専寺
- ③私は、住職の推選によって本山の中央教修を修了した門徒推進員です。本願寺の進めている基幹運動を門徒との架け橋となり推進致します。
- ④主な活動はしておりませんが、京都からのメッセージ「安穩」を配布する程度です。
- ⑤仕事の都合で覚専寺の行事等になかなかお参りできない事です。

登録番号19508

- ①伊藤 睦(いとうむつみ)
- ②出雲組 覚専寺
- ③み教えを深めるために、聴聞・研修に勤しむとともに、仲間の輪を広げること努めます。
- ④仏教若婦人会会長
お寺の行事にはできる限り参加し、機会あるごとに仲間に声をかけ、少しでも輪が広がるように努めている。

寄稿

共に歩もう
僧侶の声



当組の課題としては、連
研修了が目的視される傾
向があります。ここ二十年
間で四百名余りの連研修
了者がありますが、数年も
たちますと、あらためて中
央教修を受けようと思い
立つことは難しいようで、
三年前より「連研修了者

「連研修了者の
アフター・ケアに」

神門組組長

日 溪 清 毅

現在、神門組では九十六名の門徒
推進員が活動しています。

十名以上の寺院が四ヶ寺、四名以
上が九ヶ寺で、三〜四名の門徒推進
員と任職が連携をとって活動いたし
ますと、相当な効果を得ることが出
来ようです。

当組には門徒推進連絡協議会があ
り自立的に運用され、総会、研修
会、任職との夕食懇談会が年間行事
としてあります。そして多くの推進
員はそれぞれの寺院での教化活動の
中核となって活躍していただいでい
ます。

の集い」を門推を中心に開催して、
受講中の熱意を思いかえして頂くよ
う、工夫を重ねているところです。
門推員の方々と接する時、熱心で
あればあるほど、地道な活動、法座
への誘い、日常活動に充足感を得ら
れず、何かやり甲斐のある活動があ
るように感ずる人もあるようです。
それをもつともなことで、本来門徒
推進員は一人ひとりが伝道活動の核
となっていたことが大切であつ
て、仏婦や仏壮のように団体活動が
主体ではないはずで。そうした意
味での当組の重点事業として、数年
前より行っている連研修了者(約四
百名)門推(九十六名)僧侶(五十
名)の話し合い法座は、たとえ出席
者が三分の一でも、三者共々に、学
ぶことが多いと思います。

- ④お寺の行事や各教化団体の開催する
行事への参加。
源光寺主催の浄土真宗入門講座「正
信念仏偈」の受講。
本願寺新報・大乘・めぐみの購読。
めぐみを進呈用に一冊余分に購読
し、伝道の糸口とする。
- ⑤お寺に参るからゆとりができてと思
うが、そうとばかりいかない。
自分の中で何ら変わるものがない。
日常生活で、家族以外で浄土真宗に
ついて話す機会が少ない。

登録番号19518

- ①園山博美(そのやまひろみ)
- ②松江組 明宗寺
- ③聴聞にはげみ、心より手を合わせら
れるよう努力します。
- ④仏教女性会行事のお手伝い。
- ⑤中央教修より1年が過ぎ、何のお役に
立てたか反省しております。以後先
輩の方々とのふれあいより学びたい
と思います。

登録番号19519

- ①福原一宇(ふくはらかずひろ)
- ②松江組 明宗寺
- ③聴聞を重ね、地域で諸活動を行う。
- ④ご先輩の指示、教えの実行と諸行事
の手伝い。
- ⑤今後の諸活動の進め。

登録番号19516

- ①新宮 功(しんぐういさお)(釋 顕教)
- ②出雲組 源光寺
- ③中央教修での決意表明を現実のもの
とするために、基幹運動の推進に積
極的に参加する。また、お寺の行事
等に門徒の方々が無難に参加できる
ような方策の工夫と環境づくりに協
力したい。
門徒推進員としての自己啓発に努める。
- ④近隣有縁の方々との「縁側お茶のみ
法座」。
お寺や各教化団体の開催する行事等
への参加。
源光寺主催の浄土真宗入門講座「正
信念仏偈」の受講とお世話。
「本願寺新報」「大乘」の購読と「安
穩」の配布。
- ⑤氏神様や荒神様、そして地域行事の
定番として定着した神楽舞等は、長
い歴史を経て地域の文化として根付
いています。それ等をつき詰めて考
えると簡単に割り切れるものではな
いことに気がきます。急がず焦らず、
考え方を整理したいものです。

登録番号19517

- ①新宮文子(しんぐうふみこ)(釋 淨信)
- ②出雲組 源光寺
- ③基幹運動の推進と寺院の行事等に積
極的に参加する。
門徒推進員として自己啓発に努める。

- ⑤様々な問題を問いかけられた時など
に中々はっきりと答えられないこと。

登録番号19514

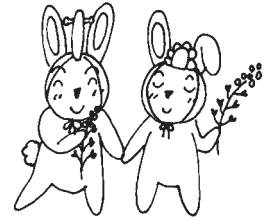
- ①井上睦英(いのうえのぶひで)
- ②松江組 本誓寺
- ③明るく開かれた本誓寺をめざし、ご
住職とともに活性化の活動につとめ
てまいります。
- ④地域社会の活性化の活動を行うなか
で、人々の心を教化することにつと
めております。
- ⑤自らのいそがしい社会生活をおくる
なかで、教区や連絡協議会の活動に
参加する時間がとれなくて、心に負
担が生じているのが、このところの
悩みです。

登録番号19515

- ①川上喜久子(かわかみきくこ)
- ②松江組 圓照寺
- ③活動に積極的に参加し、仲間を増や
したいと思います。
- ④お寺の各行事のお手伝いをさせて頂
いています。
会の人たちの協力により、お盆前に
本堂の掃除をする事が出来ました。
- ⑤自分の気持ちを相手に押しつけてい
ないか？

寄稿

共に歩もう
ビハラー



活動を実施しています。

組の門徒推進員の会員十六名中十名(四名は役員として)が活動に参加しています。

各施設の責任者(仏婦会員三人・仏社会員一人・門推員一人)は施設との調整、訪問日の設定や連絡、内容調整等を担当しています。

ビハラー山陰から
渡辺 哲彦

教団は、一九八六年(昭和六一年)に「ビハラー実践者活動研究会」を結成し実践者の養成に着手しました。第一期(第一期)現在二〇期生養成中)までの養成研修会修了者は一四一人(当教区四九名)となっています。修了者は地域で活動中ですが、教区内全体への広がりには欠けています。

そこで、昨年より、教区ビハラー連絡協議会を発足し検討を重ねてきました。第一段階として「教区ビハラーの会」(仮称)を立ち上げる事となりました。この会が教区内の活動者の皆様の活動拠点になることを念じます。さて、私の所属する「ビハラー浜田」は、二〇〇〇年(平成十二年)発足。現在会員数百名。市内の東部・中部・南部・西部の五施設で毎月一回の訪問

施設での活動内容は、法話会の後の、会員や有志による慰問(踊りや歌、大正琴、腹話術、太鼓、寸劇等)や面接です。施設(〇特別養護老人ホーム〇老人保健施設〇デイサービス)により、入・通所者の認知能力が異なりますので、訪問の際には配慮の必要があります。

教区内では、過疎化、高齢化が問題ですが、以前にお寺に参拝していた方達は、現在施設に入所・通所しています。

「ビハラー活動」は、そのような方々のもとへ、お念仏に育てられ、「いのち」の尊厳をみる心を恵まれた念仏者が寄り添っていく行為です。それは私達が、ビハラーするのではなく、ビハラーさせて頂いている、ビハラーされていると味あわせていただくことです。

門徒推進員の皆様には、まずは、「ビハラー活動」に第一歩を踏み出して下さい。お声をかけていただければ時間の許す限りお力になりたいと思います。

(浜田組 真行寺)

登録番号 19520

- ①百合澤敬子(ゆりざわけいこ)
- ②松江組 明宗寺
- ③母が見せてくれたように、お参りを
して子供達に私の背を見せたいと思
います。
- ④お参りをして手を合わせる。
- ⑤皆さんの中になかなか出て行くこ
とが出来ない。

登録番号 19521

- ①才木 薫(さいきかおる)
- ②出雲組 光栄寺

登録番号 19522

- ①岡本章夫(おかもとあきお)
- ②市山組 西教寺
- ③権力(けんりょく)をたのます
余神(よしん)をあがめず
死(し)の穢(けがれ)を忌(い)ます
吉凶禍福(きつきょうかふく)に惑わす
吉日良辰(きちにちりょうしん)をえらばず
たのむべきは弥陀一仏(みだいちぶつ)
よるべきは念仏一行(ねんぶついちぎょう)
を信条にお浄土への道を歩みます。
- ④朝夕のお参り、聴聞、寺報配布。
- ⑤なし。

登録番号 19523

- ①山城久邦(やましろひさくに)

- ②江津組 円覚寺
- ③5年前現役をリタイヤした私を、今日
に導いてくださった方々にまず御礼
申し上げたい。21年2月季節は最も
極寒の京都、ご縁をいただいて学ん
だ中央教修でした。厳しい寒さの中
での晨朝参拝、荘厳の中で誓った言
葉、4日間のすべてを忘れてはなら
ない貴重な財産として、まだまだ仏
前に立ったばかりの私ですが、一歩
々前進する中で自分の役割を探し、
そして果たしていく決意でございま
す。
- ④今私は所属寺の仏教壮年会に籍を置
き、お念仏、お聴聞と寺院に参加す
る中で、自分の活動の場を模索して
いるところでございます。5月には「全
国……つどい」、6月には「山陰教区
……連絡協議会・研修会」等にでか
け、パネリストの発表を聞き、参加
者の皆様のお話を聞かなか、今年
の自分はまだ学ぶこと、知ることと
し、来る年こそ確かな自分の活動の
場を定めることでございます。
- ⑤今年、所属寺門徒推進員第1号とし
て、住職より門徒の皆様を紹介され、
期待されながら何もできない自分に
悩んでおります。門徒の皆様の高齡
化、世帯数の減少等々により、壮年
会はもちろんのこと、私と共に活動
していただきたい第2、第3の門徒推
進員の誕生が大変難しい、悩みの種
でございます。

登録番号 19524

- ①西尾義弘(にしおよしひろ)
- ②江津組 円勝寺
- ③法座に行き聴聞を重ねます。
- ④円勝寺総代及び仏社会長の役割を
いただいています。
- ⑤仕事の都合で、自分の思いと行動を
なかなか一致させる事が出来ない。

登録番号 19525

- ①渡利年信(わたりとしのぶ)
- ②江津組 円勝寺

登録番号 19526

- ①藤原順一(ふじはらじゅんいち)
- ②出雲組 東林寺
- ③法座へ積極的に参加する。
- ④東林寺門徒推進員の一人として活動。

登録番号 19527

- ①周藤敏憲(すとうとしのり)
- ②神門組 正應寺
- ③親鸞聖人様のみ教えに従い、私ども
のお寺、そして地域社会の発展のた
めに尽力します。
- ④お寺の役員として、奉仕作業等の取
りまとめを行うとともに、極力お寺
にお参りすることとしています。
- ⑤門徒推進員としての具体的な活動が

寄稿

共に歩もう
キッズサンガ



もう一つの理由として、何をしてよいか解らないということがありました。解決方法としてキッズサンガ事例集を発行する予定です。この事例集を参考に活動していただきたいのですが、お寺と各教化団体との連携は必要不可欠であり、特に門徒推進員の皆さまのご協力はキッズ

キッズサンガ活動について

山陰教区キッズサンガ

専門委員会委員長

西原真公

山陰教区にキッズサンガが発足して三年が過ぎようとしています。手探り状態から始まり、試行錯誤しながら「キッズサンガ」という名称はジワジワと広まりつつあります。門徒推進員の皆さまは日頃から積

極的にお寺の行事などに参加され、活発に活動されておられます。キッズサンガがなかなか浸透しない理由のひとつに、住職や寺族だけで子供会をするのは困難であるとの意見がたくさん寄せられています。キッズサンガは決して寺族だけが活動するものではなく、子供を取り巻くすべての方々の取り組みであり、子供を視野に入れた、阿弥陀さまのご縁にふれていただく環境作りがキッズサンガなのです。

サンガが広まる「カギ」と言えます。新規にキッズサンガの活動を立ち上げなくても、従来の行事や法座活動に一工夫して、子ども達と一緒に集うこともキッズサンガです。そこに皆さまの特技を活かしてください。子ども達と一緒に、お寺を私達の居場所、今ここに居る私が全面的に受けとめられる「居場所」にしていきましょう。キッズサンガの目指すものは、子供達だけの居場所づくりではなく、大人にとっても居心地の良い場所づくりです。

今後、門徒推進員の皆さまと連携を深めていくためにも、教区の少年教化アドバイザーや組サポーターと連携し、無理せず活動していきたいと考えております。

子ども達とともに「すべての人びとの居場所となれるお寺に」という願いに向かって、歩んで頂きますよう宜しくお願い致します。

(佐波組浄土寺)

⑤会社勤めのため仕事との両立が難しく、単身赴任により休日のみの活動となっている。

登録番号19534

- ①三村隆夫(みむらたかお)
- ②出雲組 妙壽寺
- ③特別に意気込まず、肩・肘・張らず、身構えず、自然体で念仏聴聞重ねます。
- ④門徒推進としての行動は未だしていません。
- ⑤よくわかりません。

登録番号19535

- ①鬼村岩男(おにむらいわお)
- ②出雲組 光栄寺
- ③門徒推進員としての自覚を深め、仏社行事に参画していきます。
- ④仏社役員会に参画中。
- ⑤自分にとっての具体的活動としては何をすべきか。

登録番号19536

- ①永原干津子(ながはらちづこ)
- ②因幡組 浄徳寺
- ③一人でも多くの方を連研におさそいしたい。
- ④仲間(又は若婦の方)に声掛けしたり、法座に積極的に参加。

登録番号19531

- ①房安 薫(ふさやすかおる)(釈 得生)
- ②因幡組 願正寺
- ③お念佛に出遇えた喜びを一人でも多くの人に伝えたい。一人でも多くの人に味わっていただきたい。
- ④寺の諸行事に参加しお手伝い。仏社会長、「妙好会(尼講)」の世話人の一人。
- ⑤若手者(次世代)の人材育成が進まない事。

登録番号19532

- ①深石賢一(ふかいしけんいち)
- ②飯石南組 一念寺
- ③寺の敷居を下げる(通いやすく誰もが行きやすい寺をめざします)。
- ④寺の行事に積極的に参加。

登録番号19533

- ①田中 契(たなかちぎる)
- ②因幡組 光輪寺
- ③お寺の法座、研修会及び諸行事等に参加し、門徒として、み教えの聴聞に努め、後継者である子供へ受け継いでいきます。
- ④因幡組お待受法要、仏社会連盟鳥取ブロック研修会への参加と共に、寺院での法座、総参拝及び地区報恩講の宿等を通して、他の門徒とのご縁を頂いています。

見出せないことです。

登録番号19528

- ①森山佳子(もりやまよしこ)
- ②飯石北組 萬行寺
- ③先輩推進員の皆様と一緒に地域、お寺の行事をやって行きたいと思えます。
- ④組研修会、お寺の行事等などの参加。
- ⑤何をしたいのかわからず困っています。これが悩みなか？

登録番号19529

- ①石田昭南(いしだしょうなん)
- ②温泉津組 願楽寺
- ③諸先輩と共に護持に寄与する。
- ④現在は共に活動はしていません。
- ⑤敢えて言えば、活動が出来ていないこと。

登録番号19530

- ①西尾範子(にしおのりこ)
- ②神門組 正應寺
- ③キッズサンガの活性化に努めます
- ④所属寺において、「紙芝居とぜんざいの会」を例年1月末頃に開催しているので、その活動にむけて参画している。
- ⑤活動があまり出来ていないこと。

寄稿

私の活動



連研が活動の原点

出雲組 東林寺
遠藤 毅

出雲組第九期「連研」を終了して三年。受講前は何もわからないままのスタートで、回数が進むにつれ、少しずつ浄土真宗の知識を学ぶことができました。

現代社会に生きる私たちや、宗門が直面する様々な課題を浄土真宗のみ教の中で考え、語り合う場であり、それは、私が今まで生きてきたこの「いのち」を、いかに生きるかを明らかにする学びでもありました。その学びの原点が、「連研」にあると思います。

東林寺は三年前に出雲組「連研」、中央教修、修了者九名(男性七名、女性二名)が集まり門徒推

進委員会を発足いたしました。

主な年間活動は、年間六回のご法座の準備や清掃奉仕、一日研修、夏休みに「ゆりかご子ども会」の開催など、門徒とご住職が一体となり事業を進めています。

特に子ども会は、発足時から準備を進め、大東町成福寺様、鹿野町光輪寺様の子ども会のやり方を参考にさせていただき、念願の開催となりました。

昨年の「ゆりかご子ども会」は二十名の子も達が元気いっぱい集まってくれました。ご講師に本願寺布教使・日次知浄先生を迎え、手作りの紙芝居、ゲームで子ども達の笑い声が本堂に満ちあふれました。また、ご住職の二十年ぶりの腹話術は大盛況の大喜びで、とても楽しい一日となりました。今後は内容を充実させながら、より広く、たくさんの子も達に参加を呼びかけたいと思います。

宗門の長期振興計画の中にある「次代を担う人の育成」に一步でも近づけたと思います。これからも「お寺にいつてみよう」を合言葉に活動を継続してまいります。

仏法はわかきときから

因幡組 願正寺
房安 薫

私が受けた中央教修には沖縄特区から初の参加(三名)があり、記念すべき中央教修となりました。

私自身は教区研修も受けており、その頃から中央への参加の思いを持っていましたが、仕事の忙しさや、まだ若いからとの思いでいる内に、今回まで延びてしまいました。特にお寺とか、仏教に関わる事を嫌っていたからというのではありません。私が住んでいる地域の事情も、家庭の事情も、関わる方が「あたりまえ」的な中で育った私にとって、一時的な気紛れだったのでしょう。

しかし思いは消える事なく二十五年間、心の底でその時を待っていました。ずるずると延ばしていた私に「まだ来ぬか、まだ来ぬか？」と親さまが呼び続け、今の世情を作りだしてまで呼んでくださったように思え、「時は今か」と参加させていただきました。

本山に着き、受付を待つ間、大

修復となった御影堂に上り、延ばし延ばしにして、参り遅れたお詫びと参加出来た事のお礼のご挨拶を致しました。

中央教修での四日間、充実した日々を過ごさせていただきながら、『蓮如上人御一代聞書』の中の一文「わかきとき仏法はたしなめと候う。」(63)を思い出していました。体のあちこちが、特に膝痛で、時に歩くにも不自由する事がある私には重い言葉でした。

中央教修で決意表明したとおり、今後は多くの人に、特に若い人にもお念佛に遇えた喜びと感動を味わっていただきたい、その喜びを伝えたいと思っています。そのためにも、お寺での行事や法座等、事有る毎に声かけして参加を呼びかけ、私自身もより聴聞に心掛けていきたいと思っています。



一九八回教修生として

因幡組 浄徳寺

永原 千津子

連研を修了してますます浄土真宗のみ教を勉強したいと思うようになりまし。中央教修に行かせて頂いたのもその思いからです。

全国から五十名の受講生の皆様と三泊四日、七つの班に分かれて話し合い。法座を中心に中身の濃い話し合いになり、相手の思いを受けとめ、共感し、共に涙を流し、何でも話せるとても身近な仲間となりました。

教修を受けて連研の大切さを実感いたしました。一人でも多くの方を連研におさそいさせて頂き、共に歩んでゆく仲間を作りたいと思います。

このような気持ちに変えて頂いた先生方に感謝するとともに、次の連研には娘を受講させたく思っております。

真宗門徒への一步

松江組 明宗寺

福原 一宇

一歳七カ月のときに父を亡くし、幼少年期は農家であった実家の祖父母に育てられました。

幼い頃、祖父母が農業の合間にお寺参りをされていた事を思い出します。

農家であったため穀物と野菜に事欠く事はありませんでしたが、毎日の食事は質素なものでした。家族が揃った夕食の前に、祖父が必ず仏前で正信偈を偲(なげ)めていた事が記憶に残っています。その時、後ろに座り、勤行を無意識に聞いていた幼少期。思えば、父、祖父母が仏となり、未熟な私の信心への道を歩む手助けをいただいていたのではと感じている次第です。

今、門徒推進員の一年生としてお寺や教務所での聴聞の機会には極力参加し、親鸞聖人の浄土真宗の教えを一つでも身に付けたく、また、同席された門徒方のお知恵をいただき、作法を取得している際中でございます。

最近では、自分の心におおらかでゆとりが感じられてなりません。言葉に言い表わす事が出来ませんが「もったいない」「おかげさまで」「ありがとうございます」の気持ちを常に持てるようになりました。それは、人だけなく生きていくものに対する感謝を表現出来るようになったためと思う、今日この頃でございます。

中央教修を終えて

飯石南組 一念寺

深石 賢一

組の連続研修でもかなりの知識を得たつもりではいたが、中央教修ではかなり強い衝撃を受けるほどの感動と達成感を得た。

全国から集まってこられる皆さんの中で、自分がついて行けるだろうか。参加しない方が良かったんじゃないかと考えながら参加した。

しかし、心の底から訴える討議と、それを証明する真剣な眼差しと涙に

よろいびのハンム

神門組 願立寺

桑本 巖

かつて、平穏な街づくりを使命として取組んでいましたが、職場での退任が近づくと、自然に感謝し、世俗を離れて生活したいとの想いが強くなりつつありました。

静かな環境の中で何かを求めたいと模索していた折、仏教からのさそいであろうか、「連研」という大字が新鮮な響きとして目にうつりました。

知識のみの仏教から自発的な行動、仏教への転身です。連研ではスタッフの方々の熱意と愛情にささえられ、終

当初の不安もすぐに消え、その輪の中にいた。

参加目的は「寺の敷居を下げる」と大層な目標を掲げたが、父が亡くなって二年が過ぎ、寺に通う機会も多くなり、段々と若い方達も遠慮なく通うことのできる環境を作ってゆかなくてはならないと思うようになってきた。

今回の中央教修で得た貴重な体験を基に、護持活動に励みながらも、決して成果を出そうと焦ることなく、皆さんのご協力を仰ぎながら目標に近づけるよう努力したいと考えます。

了時には代表謝辞(決意)を述べることにしました。

中央研修でも、班長として多くの皆さんと積極的に関わりました。高度な研修ではありましたが、真宗の歴史に必然的な愛着感、諸行事等にローカル性からくる格差のあることも学びました。

転勤生活が終了し、ふるさとに帰ったときの私の名刺には、
巖 居川 観

という肩書きがあります。表面的には世俗を離れたと想いますが、
今後は、研修で得た人生のあり方を活かしつつ、多くの人々と、よろこびのこころを共有してまいります。

門徒推進員 中央教修を修了して

神門組 正応寺

西尾 範子

私は中央教修を修了して半年余りになります。教修において門徒推進員は、「資格」というより「自覚」であると強調されていたと記憶しています。

私の推進員としての自覚は未熟ですが、将来を担ってもらえるであろうキッズの皆さんと、楽しい時間をもつ活動をする事から始めたいと考えています。

幸い、所属寺において、「紙芝居とぜんざいの会」という、キッズサンガ活動が行なわれているので、住職・坊主・婦人部会員の皆さんの力も借りながら進めて行こうと思います。どうぞよろしく願います。

中央教修を終えて

温泉津組 願楽寺

石田 昭南

本山道場での全国各地からの同朋との出会いと教修生活は、仏縁の賜物で、私にとっては、就職で約四十年間故郷を離れ、とかく仏道に疎遠であった事への反省でもありました。

晨朝参拝、帰敬式、決意表明等、仏教が頭から離れない生活は、大変貴

重な体験となりました。時宜を得て、門信徒として、少しでも心豊かになれたと思っております。事前アンケートでは教修参加の望みとして、「身震いする様な仏縁」と記しました。正直なところ、それはありませんでした。今思えば宗祖の「弟子一人も持たず：みなともに同行なり」の謙虚なお人柄のしみ込んだ道場に迎えて頂けたせいであつたのだと、また私の信心の浅さと不勉強のせいであつたと。

このご縁を頂いた事で、教材や聞法を通じて、阿弥陀仏や親鸞聖人が身近に居てくださる事を知らせて頂きました。

今後は、そのことに日常生活を心掛けながら、門徒推進員として、諸先輩の方々にご指導を頂きつつ、少しでも寺門の護持発展に寄与致したいと思えます。

まことの念仏者になる 学びと実践へ

市山組 西教寺

岡本章夫

私は七年前、縁あって西教寺で仏前結婚式をしました。その翌日、京都のご本山・西本願寺に結婚奉告参拝をし、帰敬式を受けて法名を拝受しました。

この仏前結婚式が縁となり、西教寺の法座のたびに聴聞を重ね、また西本願寺の念仏奉仕に毎回参拝し、教区の

各種研修会にも参加するようになりました。

一昨々年の秋から、江津組で開催された連続研修会に、住職とともに受講しました。そこで多くの皆さんとお念仏のであいがあり、次回が待ち遠しくなりました。そして、あつという間に一年余りが過ぎ、十二回の連続研修をすべて受講し、修了することができました。

この連続研修会を修了すると、西本願寺での門徒推進員中央教修を受講できると聞き、昨年二月の教修に、江津組三名の皆さんとともに参加しました。

話し合い法座では「であい」「神」「差別」「浄土」で話し合いました。その中で、私は聴聞を重ねるうちに、神に祈ることや運勢や日の善し悪しを気にすることもなくなり、自宅にはお内仏(お仏壇)だけで神棚はないことなど、真宗門徒として育てられたことを話しました。

参加者の皆さんとは、食事や休憩中、就寝前に寸暇を惜しんで、それぞれの人生やみ教えについて、時には涙を流しながら語り合いました。ここでも多くのみなさんとお念仏のであいがありました。

教修の中で門徒推進員とは「資格」ではなく、「門徒としての自覚」との言葉を聞きました。弥陀一仏をよりどころとして、自らがまことの念仏者になる学びと実践に、さらなる聴聞を重ねる覚悟を新たにされた中央教修となりました。

門徒推進員となって

出雲組 覚専寺

伊藤 陸

第一九二回門徒推進員中央教修に参加しました。若婦人会会長という大役をいただき、その名に少しでも近づきたいと思い、不安な気持ちもありましたが、覚専寺からは三名と、心強い仲間と一緒に過ごすこともあり、興味深い気持ちの方が優先していたように思います。

特に心に残っているのは、帰敬式、決意表明は厳粛な中、阿弥陀如来さまの御前で緊張し、感動したことは忘れません。

また、連研、中央教修の法座活動で「神」について、というテーマが掲げられるが、これは地域の中では切っても切れないものであり、どちらか一方に通そうとするのもむずかしいことであるなど、現実の生活の中からも思わずにはいられない出来事もありました。

門徒推進員となってから、本願寺より「門徒推進員だより」や行事の案内等が送られてきますが、来る度に自覚させられ、目を通すだけで精一杯で、中央の行事に参加するなど程遠く、こんなことではいけないと思うのですが、現実はなかなか厳しいのです。しかし、あせることはなく、今は所属寺での活動を精一杯行い、一歩一歩自分を高めていきたいと思うのであります。

寄稿

会員寄稿



同期会

松江組 明宗寺

田原 久美子

中央教修を修了して、そろそろ五年目を迎えようとしています。私たち第一六四回生は「広世会」と名付け、毎年同期会を開いて居ります。毎回、三十五、六名の参加があります。今年も滋賀教区の当番で案内があり、私も出掛けました。

「蓮如上人の足跡を尋ねて」と題して、琵琶湖クルーズや近江八幡市内の観光。本福寺と西福寺へ参拝して、おつとめした後、ご住職のご法話を頂きました。なつかしい顔と再会し、楽しい一泊二日の旅でした。来年は、こちら山陰が当番になり、またの再会を約束して別れました。

今年も明宗寺の報恩講が先日勤まり、お聴聞しました。講師先生のご法話をもっと聞きたいと思いました。最後のお座ののち、明宗寺のご住職のごあいさつで、

「いただいた」信心とどけられたお念仏と結びました。私は、とても心に残りました。

山陰の旅は、「お聴聞の旅」もいいなど、ひとり感じた日でした。

生は偶然、死は必然

石東組 立善寺

田中 睦男

この秋のある日、たまたま近在の高名なお寺に参詣する機会があった。人つきのない、寂しい門前の掲示伝導板に「生は偶然、死は必然」と墨書されて貼られていた。

ただそれだけの言葉であるが、その背景に潜んでいるものは、まことに巨大、味わいのある名言だと思つた。

この短文の表現している内容は、客観的、科学的な真理である。厳然たる事実、かつ実証的でもある。

この冷徹な現実を人々はこのように受け止めるだろうか？

私は季刊「せいてん」を創刊間もなから継続して購読している。

二〇〇九年夏の号(No.87)の中で、ある講師は次のように述べておられる。

「明治以来、近代人は科学的、実証的世界観の教育を受けてきました。ですから現代人は実証的にしか世界を理解できなくなっています。」

「本来、実証主義と異なる世界観の

事象を実証的に答えようとしても、自他共に納得のできる答えを出すことは無理です。」

「仏教では世界は『心』(感性)によって変化するという唯心的立場に立脚します。」

「実在を論ずることは無意味です。いま自らがどのように世界を感受し、感得しているかが中心なのです。」

「仏心といわれる『さとり』の心」が感得する世界を浄土とよび、我執によって感得された世界を穢土、迷いの境界といひます。」

「自己中心の欲望によって感受する世界と、我執を超えて自他平等の境地にいたつて感得されている仏の境界とは、感得対象は両者とも同じですが全く違った境界と受けとめられます。」

つまり、問題は主観の認識論の問題であり、価値観・世界観の問題であり、感性の問題である。

そこで、以下、当初の短文に対する私の受け止めを述べてみよう。

たまたま(「偶然」)相逢うた両親の存在によって母親の胎内に芽生えた生命(「これも偶然」)が、人間となつてこの世に生誕し(「偶然の連続」)成長して社会人となつて長く多様な人生を生き(「実は生かされて生き」)、やがて必ずやってくる生命の最後、いのち尽きる、絶える、死に直面する。

偶然の連続によって与えられた生命は生きている限り奇跡であり、貴重であり、大感謝である。謙虚さと畏敬の念を持ち、報恩に尽くすこと。

また生かされている背後には、多くの生物がエコシステム(生態系)の環の中で均衡を保ちながら生かされていることを想い、環境の子であることを忘れないこと。

生きている限り煩惱熾盛の凡夫であり、極重悪人であることの自覚ある生であること。

必然としての死は「来るべきものが来た」と従容として迎えたい。

「我が人生に悔い無し」と泰然として浄土へ行きたい。

山陰教区門徒推進員連絡協議会 役員名簿

役職	名前	組名	所属寺
会長	松浦 靖	松江	明宗寺
副会長	田中 圓而	大田	常見寺
会計	上田 克夫	神門	長泉寺
理事	今岡 力	出雲	源光寺
理事	福島 勲	出雲	西念寺
理事	安部 賀就	神門	乗光寺
理事	森山 毅	飯石南	西正寺
理事	廣澤 英雄	飯石北	善徳寺
理事	長野 矩広	温泉津	西楽寺
理事	森田 勝	邑智西	願入寺
理事	長田 幸男	浜田	真光寺
理事	三村 善信	因幡	光輪寺
監事	名免良 廣秋	松江	真光寺
監事	景山 三郎	飯石南	一念寺
参与	日野 実	出雲	源光寺
参与	遠藤 英逸	神門	善福寺

2008(平成20)年度 山陰教区 門徒推進員連絡協議会 会計決算書

収入合計 1,133,167
 支出合計 913,503
 差引残高 219,664 (次年度へ繰越)

▷ 歳入の部

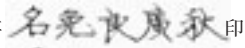

科目	本年度 予算額	本年度 決算額	対比△減	摘要
会費	380,000	407,000	27,000	
1 本年度会費		405,000		1000円×405名
2 過年度会費		2,000		19年度、2名分
助成金	50,000	50,000	0	教区より
参加費	400,000	402,500	2,500	総会・基推研 修参加費
1 総会・ 研修会		118,500		1500円×79名
2 基推委 研修会		284,000		2000円×142名
諸収入	476	143	△ 333	利子
前年度繰越	273,524	273,524	0	繰越金
合計	1,104,000	1,133,167	29,167	

▷ 歳出の部

科目	本年度 予算額	本年度 決算額	対比△減	摘要
研修費	450,000	410,165	△ 39,835	総会、基推委 研修会
1 総会		188,110		
2 基推委 研修会		222,055		
広報費	100,000	90,300	△ 9,700	編集会議・ 印刷代等
会議費	80,000	72,298	△ 7,702	理事会
旅費交通費	210,000	263,500	53,500	理事会、役 員会交通費
通信費	20,000	27,240	7,240	郵送費
事務費	60,000	50,000	△ 10,000	事務費
回金	0	0	0	連区研修会 特別会計へ
予備費	184,000	0	△ 184,000	
合計	1,104,000	913,503	△ 190,497	

平成20年度山陰教区門徒推進員連絡協議会の会計帳簿、通帳を監査した結果、適正に処理されていたことを認めます。

2009 (平成21) 年 4 月 14 日
山陰教区門徒推進員連絡協議会

監事  印
 監事  印

2008(平成20)年度 事業報告

〔目標〕 御同朋の社会をめざして
 〔スローガン〕 とともに いのち かがやく 世界へ
 〔教区基幹運動 重点項目〕

- ① 親鸞聖人のみ教えに学び、全員聞法・全員伝道の門信徒会運動を推進しよう。
- ② 過去の過ちと現実を直視し、差別と戦争のない社会をめざして同朋運動を推進しよう。
- ③ いのちの尊厳と平等をもとに、一人ひとりの苦悩に共感できる開かれたお寺・教団にしよう。
- ④ 連研の充実をはかり、門徒推進員の増員をはかる。

日	事業	備考
4月9日 (水)	監査会	会計決算について
5月7日 (水)	理事会	事業計画、予算案など
6月4日 (水)	平成20年度 総会・研修会	【会場】 松江テルサ 【講師】 小玉教雄 (元本願寺社会部長) 【参加者数】 79名
6月6日(金) ～7日(土)	第4連区 代表者会議	連区研修協議会について 会長、事務局、計 2 名出席
9月27日(土) ～ 28日(日)	第4連区 研修協議会	【会場】 四州・塩屋別院、 琴讃閣 【講師】 宮本義宣 (中央相談員) 【参加者数】 37名
10月31日 (金)	会報編集会議	会報「ともしび」第10号
12月20日 (土)	理事会	基幹運動研修会について
1月25日 (水)	会報「ともしび」 第10号発行	1000部発行 (会員、全寺院、 他配布)
2月22日 (日)	基幹運動 研修会	【会場】 神門組・乗光寺 【講師】 北島清秀 (本願寺研修講師) 【参加者数】 142名

2009(平成21)年度 山陰教区 門徒推進員連絡協議会 会計予算

▷歳入の部

科目	前年度 予算額	本年度 予算額	対比△減	摘要
会費	380,000	440,000	60,000	
1 本年度会費		440,000		1000円× 440名
2 過年度会費		0		過年度分
助成金	50,000	100,000	50,000	教区より
参加費	400,000	480,000	80,000	総会・基推研 修参加費
1 総会・ 研修会	240,000	240,000	0	2,000円× 120名
2 基推委 研修会	240,000	240,000	0	2,000円× 120名
諸収入	476	336	△140	利子
前年度繰越	273,524	219,664	△53,860	繰越金
合計	1,104,000	1,240,000	136,000	

▷歳出の部

科目	前年度 予算額	本年度 予算額	対比△減	摘要
研修費	450,000	450,000	0	総会、基推委 研修会、他
1 総会	225,000	225,000	0	
2 基推委 研修会	225,000	225,000	0	
広報費	100,000	100,000	0	編集会議・ 印刷代等
会議費	80,000	80,000	0	理事会
旅費交通費	210,000	270,000	60,000	理事会、役 員会交通費
通信費	20,000	35,000	15,000	郵送費
事務費	60,000	60,000	0	事務費
回金	0	0	0	連区研修会 特別会計へ
予備費	184,000	245,000	61,000	
合計	1,104,000	1,240,000	136,000	

2009(平成21)年度 事業計画

【目標】 御同朋の社会をめざして

【スローガン】 とともに いのち かがやく 世界へ

【教区基幹運動 重点項目】

- ①親鸞聖人のみ教えに学び、全員聞法・全員伝道の門信徒会運動を推進しよう。
- ②過去の過ちと現実を直視し、差別と戦争のない社会をめざして同朋運動を推進しよう。
- ③いのちの尊厳と平等をもとに、一人ひとりの苦悩に共感できる開かれたお寺・教団にしよう。
- ④連研の充実をはかり、門徒推進員の増員をはかる。

期日	事業	備考
4月14日 (火)	監査会・理事会	会計決算について
5月23日 (土)	第5回全国門徒推 進員のつどい	【会場】 京都・本願寺 【講師】 上山大峻 (教学伝道研究セ ンター長) 【参加者】 29名参加
5月25日 (月)	理事会	総会・研修会について
6月14日 (日)	平成21年度総会・ 研修会	【会場】 出雲組・源光寺 【講師】 小玉教雄 (元本願寺社会部 長) 【参加者数】
10月 日	会報編集会議	会報「ともしび」第11号
12月 日	理事会	基幹運動研修会について
1月 日	会報「ともしび」 第11号発行	1000部発行(会員、全寺 院、他配布)
3月14日 (日)	基幹運動研修会	【会場】 松江組・明宗寺 【講師】 北島清秀師 (本願寺研修講師) 【参加者数】



願われて

大田組 常見寺

田中 円而

中央教修を終了し、門徒推進員となつて、早いもので十年を過ぎました。平成二十四年一月十六日は、宗祖親鸞聖人七百五十回に当たります。本願寺ではご修復工事を終えた御影堂に於いて、親鸞聖人七百五十回大遠忌法要が厳修され、御同朋の皆さんと共に揃って本願寺参拝をさせて頂いたことを心待ちいたしておりました。

私の所属寺では、全員聞法・全員伝道をお願いとし、毎月聖人の御命日に御法座が勤められます。また、曜日毎に色々と法座活動が行われますが、私は、歎異抄講座と壮年会講座を受講させて頂いて頂いています。

歎異抄法話を聞かせていただいたら、祖父の生前によく聞いたお話の思い出があります。自分が五歳から八歳頃でありましょうか、祖父は大変話術のうまい人で、よく日本昔話をしてくれたものです。

「あるところに……」という調子で、夕食が終わると話が始まります。その中の一つの物語が檀山節考(ならやまぶしこう)です。大変恐ろしく悲しい話です。

山と山が連なった、山深き谷間のおりんの家が物語の中心です。村は大変貧しく、食べ物もろくろくありません。生み育ててくれた親は働けなくなると、子によって山に捨てられるという悲惨な話です。

しかし、わが子が無事に家に辿り着くか否かを心配した親が、山の分かれ道の木の小枝を家の方向に折り曲げて帰路の目じるしにしてくれたので、迷わず帰ることができたと、実に悲しい話を聞きました。

話が終わりますと必ず、「親の思いは有難い。親の恩は一生の恩。仏さまの恩は量ることは出来ない。」

と口癖に言い聞かせてくれました。今になって思いますには、「仏の恩は、永劫の御恩なんだ」と教えられていたことに気がきます。

祖父は、「仏さまのことはお寺にお参りし、住職さんに本気で聴け」とよく言っていました。今は亡き両親も、私に

「寺参りせえ、寺参りせえ」と促しました。祖父、両親にとりましては、親不孝者の私であることをつくづく思わせて頂いております。

私の全身に、先達の方々の無限の命の願いが働いてくださることを知らされ続ける毎日です。

大きなご縁のまんなか

邑智西組 願入寺

森田 勝

今年度、邑智ブロックでは、組長をはじめ関係者のご努力によって待望久しく六名の新会員をお迎えすることができ、総員三十九名になりました。

五月には役員会、総会・研修会、九月には単独の研修会が、約三十名の出席のもと、日貫の願入寺で開催されました。

「領解文」について、円座となつて、日頃思うことについて話し合い法座をしました。組長、副組長にもご出席いただき、適切なご助言をいただいた有意義な研修会になりました。

次に十月二十五日には親鸞聖人七五〇回大遠忌「お待ち受け法要」が、約四百名の参加を得て矢上交流センターで開催されました。幼児の献灯、本山の雅楽、ご住職方の法要、霊山勝海和上による記念講演、鈴木君代さんの歌のライブ。

組長陣頭指揮のもと、邑智西組の全組織をあげて取り組まれ、私ども門徒推進員も前日の会場設営、当日の案内係など、実に五十年に一度のご縁に預ることができました。

さらに十月の初めには、長い間の念願でありました「インド・ネパール積尊五大聖地巡拝とタワー・マハールの旅」に、門推員の森上、小松両氏他十五名と参加するご縁に恵まれました。生涯忘れえぬ大感動の一週間でした。積尊ご生誕の地、ネパールのルンビニ。成道の地、ブダガヤ。初転法輪の地

編集後記

サルナート。涅槃の地クシナガラ。王舎城の悲劇のラジギール。説法の霊鷲山。七重の牢獄跡。玄奘三蔵も学んだナーランダ仏教大跡。世界の七不思議のひとつ、ガンジス河のほとりに建つ霊廟タワー・マハールなど。

今に息づく過去と歴史、悠久のインド。人口十一億五千万人の内にヒンドゥー教徒が七割、国土は日本の約九倍、直行便で九時間。これが長い間憧れていた天竺です。

命の尊さ、信ずることの素晴らしさを肌身で感じ、大きなご縁の真ん中にいることに報恩感謝です。

去る五月、「第五回 全国門徒推進員の集い」が開催され、新装された御影堂に門徒推進員が満堂して相集う姿は圧巻でした。一〇月には大谷本廟親鸞聖人七五〇回大遠忌法要に際して門推員へ奉仕員の募集がありました。御正忌報恩講には本年度新加入の方を対象に奉仕員が募集されるなど、ご遠忌円成に向かって、門推員への期待を込めた新たな取り組みが始まりつつあります。

現在、全国に約八千名の門徒推進員が誕生しています。山陰教区では五五一名が登録、物故者などを除くと四五五名が現役で活躍しておられます。それは二六組四三七ヶ寺中、二二組一〇九ヶ寺の所属です。「一ヶ寺におひとり」の門徒推進員誕生を目指して、仲間づくりに励んでまいります。

(教区相談員 朝枝)